たからものずかん4

いわきの縄文時代Ⅱ

- くらし 編 -



- **春** 野山でワラビやゼンマイなどの山菜をとり、海辺ではハマグリやシジミなどの貝類を 拾いました。
- **夏** 漁の季節です。丸木舟をあやつり、釣り針やモリを使ってマグロ、カツオ、タイなどをつかまえました。
- **秋** ドングリ、トチ、クリ、クルミなどの木の実をたくさん拾いました。川にさかのぼってきたサケも貴重な食料でした。
- **冬** 狩りの季節です。
 一学矢を使って、シカ、イノシシ、クマ、ウサギなどの動物や、キジ、カモなどの鳥をとっていました。

住む

縄文ムラのようす -生活-



縄文時代の人々は、地面を掘りくぼめた直径4~5mの竪穴住居に住んでいました。中央につくられた炉に火を焚き、食料を焼いたり、土器を使って煮炊きをしました。4・5軒でムラをつくり、生活に必要な貯蔵穴や水さらし場、またお墓などもつくられました。



木の実や山菜を集める -採集-

春には木の芽や山菜をつみ、秋にはドングリやトチなどの木の実を拾い、果実やキノコをとり、打製の石おのを使ってヤマイモを掘っていたことでしょう。

ドングリなどの木の実は、縄文人の大切な食料でした。



木の実拾いには、植物の ツルなどで編んだカゴを 使っていました。

番匠地遺跡(内郷)



打製の石おのは土掘り具として、ヤマイモなどを掘り出すのに使われたようです。

連鄉遺跡(久之浜町)



でいる。 はこ やま しい せき 平の横山 B 遺跡から見つかった貯蔵穴の断面

集めた木の実などは地面を掘った穴の中に保存していました。穴は、入り口が狭く、底が広いフラスコのような形をしています。大量のドングリが保存できたことでしょう。





ドングリなどは、かたい殻を競き 石と凹み石で割り、石皿を使い粉に して、調理していました。

連郷遺跡 (久之浜町)



内郷の番匠地遺跡から見つかった カヤの実とトチの実







連郷遺跡(久之浜町)

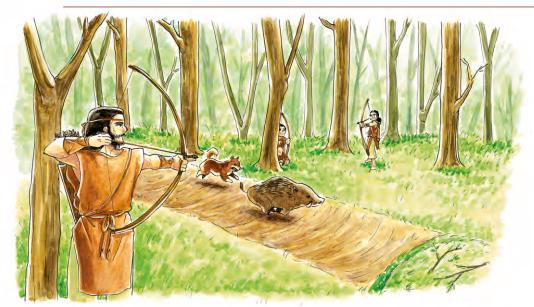


まいそ い せき みゎ **差塩B遺跡** (三和町)

炉は、調理するだけでなく 照明や暖房の役目もあります。 トチの実やドングリなどは 炉から出る燃えかす(灰)を まぜて何度も深鉢形土器で煮 て苦みを取り除きます。

動物や野鳥を捕る - 狩猟-

写矢を使って、イノシシやシカなどの動物を捕まえていました。落とし穴などのわなも使われました。大きな獲物を狩るためにムラのみんなで協力したことでしょう。 イヌは猟犬として縄文人の大切なパートナーでした。





売和町の中ノ内 C 遺跡から見つかった落とし穴を調査しているようすです。深さは 1.2mあり、一度落ちるとはい上がれないような工夫をしています。底にはとがった杭が打ち込まれることもあります。





平の薄磯貝塚から見つかったイノシシとシカの下がく骨。ほかにも、ウサギやキツネなどの動物やカモ・コウノトリなどの鳥の骨も見つかっています。



好間町の愛谷遺跡からは 4500 個以上の矢じりが見つかりました。 地元で取れる材料のほかに、運び込まれた黒曜石も利用しています。 右は内郷の番匠地遺跡から見つかった弓です。



すが、まかいっか 薄磯貝塚のイヌはていねいに埋葬され ています。大事な家族の一員だったこと がわかります。

さかなや貝を捕る - 漁撈-

丸木舟に乗って海にこぎだし、鹿の角でつくった釣り針やモリ、おもりをつけた網を使って漁をしていました。遠浅の海岸では貝を拾い、岩場では海にもぐってアワビなどをとりました。



自然に感謝し再生を願う - 祈りと祭り-

縄文人は、祖先や亡くなった人へのいのり、食料など豊かな自然の恵みへの願い、病気や天災などをさけるためのまじないなど、いろいろな目的でまつりをおこないました。



編文人は亡くなると、膝をまげて穴に埋葬されました。 穴の中からは、アクセサリーや土器が見つかることもありました。 亡くなった人が使っていたものかもしれません。

赤ちゃんや小さな子供は、時には土器に入れて埋葬されました。



作B遺跡(三和町)



薄磯貝塚から見つかった人骨。10才くらいの子供だったことがわかっています。

縄文時代のムラからは、土偶や岩棒など日常生活では使わないような道具が たくさん見つかります。まつりの種類によって使い分けられていたのかもしれ

ません。



絵が描かれた やわらかい石



薄磯貝塚(平)



粘土を焼いて つくったお守り

相子島貝塚(小名浜)





土器の内側につけられた顔

連鄉遺跡(久之浜町)

アクセサリーを身につける -縄文人のお守り-

縄文人は、衣服を着て、私たち現代人と変わらない種類のアクセサリーを身につけてい ました。衣服は頭からかぶる着物が考えられ、植物の繊維を編んだり、毛皮を加工して つくられていたようです。

> アクセサリーにはかんざし、くし、耳飾り、首飾り、腕輪などがあり、 材料には、石・木・角・骨・牙・貝殻・粘土などが使われました。



土偶は女性を 表現したものが 多くみられます。

愛谷遺跡 (好間町)

ものもみられます。また、髪を結 ったり、化粧を表現しているもの

土偶から縄文人の姿を想像する ことができます。なかには、パン ツやズボンをはいたように見える

革飾り







綱取貝塚(小名浜)

松ノ下遺跡(川部町)

首飾り



相子島貝塚(小名浜)

が か 腕輪



相子島貝塚(小名浜)

泉町の大畑貝塚で 見つかった右肩に 腕輪が置かれた人骨



イラスト: 宗川美貴

もあります。